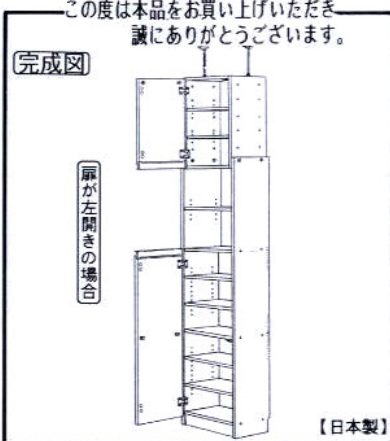


薄型突っ張り収納庫 扉タイプ 幅45 奥行31 組立説明書(型番)F-283



たんす類の品質表示

寸法
外形 約幅450mm × 奥行き316mm × 高さ1830~2320mm
引出しの奥行き

表面材 プリント紙化粧合板
表面加工

取り扱い上の注意

イ. 裏付けの際には、湿気の多いところを避け、家具を水平に保つために必要な措置を講じてください。
ロ. 直射日光又は、ストーブなどの熱を避けてください。

耐荷重量についての表示 棚板は約10kgを超えない範囲でご使用下さい。

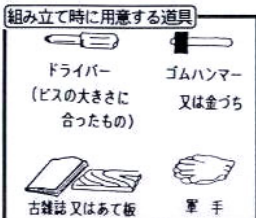
△組み立て前に必ずお読み下さい!

- 塗料・接着剤等の臭いがこもっている場合があります。梱包を開けて作業する場合は通気性を良くして行ってください。
- 組み立ては十分に広い場所で行い、まわりの家具や床等に傷がつかないように注意してください。
- 組み立ての際は指を挟んだり、足にものを落とさないように充分注意してください。
- 組み立てる前にまず部材・部品を確認してください。
- 万一、備不足があればご面倒ですが下記のお問い合わせ窓口までご一報ください。
- ボンドをつける前に仮組み(確認)をすると、間違いが防げます。
- 部材をボンドで接着した後では外す事ができませんのでご注意ください。
- ビスのプラス穴に合ったドライバーを使用し、最初は仮締め程度にして組み上がってから締めてください。
- ビスを必要以上に締め過ぎると、空回りして効かない場合があります。電動ドライバーをご使用の場合はご注意ください。
- ボンドが完全に乾いてから(12時間程度が目安です)ご使用ください。尚、はみ出たボンドは拭き取ってください。

(注意)※商品を保護するために薄い板が2枚入っていますが、組み立てに必要な部材ではありません。

※裏面の取扱説明書も必ずお読み下さい。また、この説明書はいつでも見られるように大切に保管して下さい。

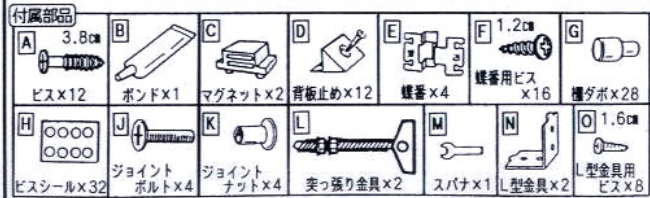
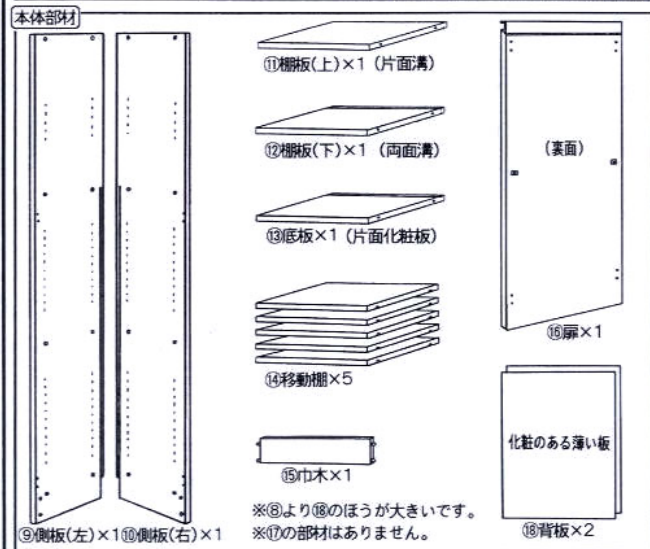
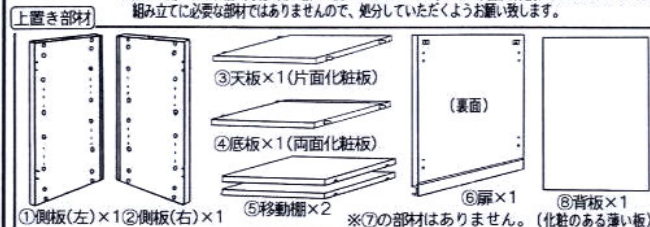
上記の注意事項に充分注意して、正しく組み立てて下さいますようお願い致します。



部材 - 部品 明細

(部品明細) ※下図に描かれた部材・部品が揃っているか、確認して下さい。

※梱包を開けると、箱の両端に薄い板が1枚づつ入っています。これは商品を保護するためのものであり、組み立てに必要な部材ではありませんので、処分していただくようお願い致します。



組み立ての手順

F-283

番号の順番に従って、組み立てて下さい。

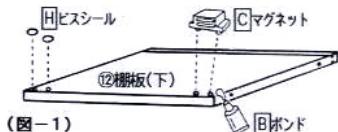
1 本体を組み立てる。

※ハンマーで叩く場合は、あて板・古雑誌(厚みが2cm以上あるもの)等をあて下さい。

注意 ※マグネットを取り付ける時は、扉を右開きにするか左開きにするか決めた上で取り付けて下さい。

●扉を右開きにする場合……

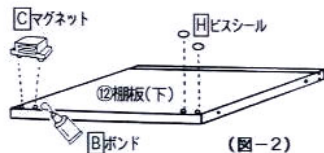
⑫棚板(下)の穴2個にBボンドを入れてCマグネットを取り付け、不要な穴2個にHビスシールを貼って下さい。(図-1参照)



(図-1)

●扉を左開きにする場合……

⑫棚板(下)の穴2個にBボンドを入れてCマグネットを取り付け、不要な穴2個にHビスシールを貼って下さい。(図-2参照)

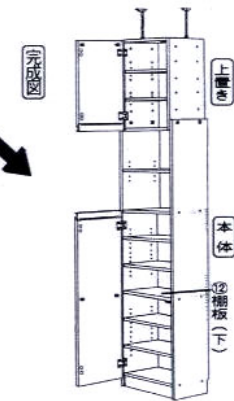


(図-2)

※かたい場合はCマグネットに古雑誌などをあて軽くたたいて下さい。
なお、たたき過ぎると破損する恐れがありますので、マグネットの突起した部分(差し込む部分)2本をサンドペーパーなどで少し削ると入りやすくなります。
ただし、削り過ぎにご注意下さい。

※扉の裏面にマグネットを取り付ける場合は、あて板・古雑誌(厚みが2cm以上あるもの)等をあて下さい。

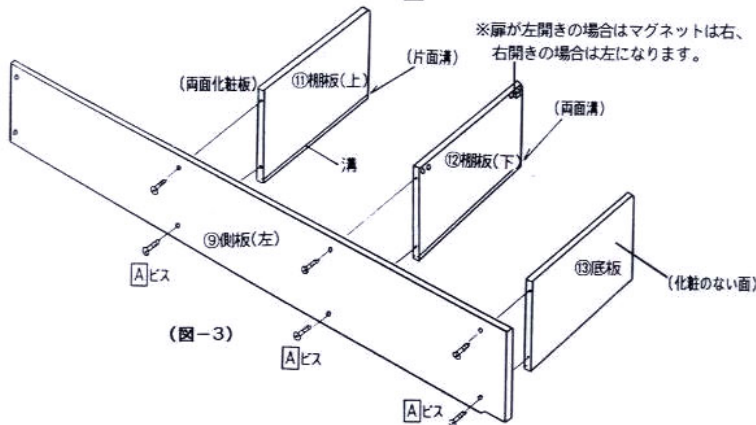
※扉の裏面にマグネットを取り付ける場合は、あて板・古雑誌(厚みが2cm以上あるもの)等をあて下さい。



2 本体を組み立てる。(続き)

※図-3と図-4は扉が左開きになる説明図ですが、右開きの場合も組み立て方は同じ要領です。

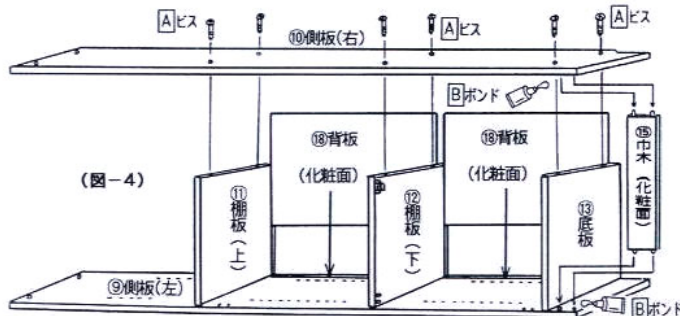
(1)⑨側板(左)に⑪棚板(上)・⑫棚板(下)・⑬底板を、Aビスで取り付けます。(図-3参照)



※扉が左開きの場合はマグネットは右、右開きの場合は左になります。

(2)⑨の穴2個にBボンドを入れて⑮巾木を差し込み、⑪・⑫・⑬の溝に沿って⑮背板2枚を化粧面に前に向けて差し込みます。

(3)⑩側板(右)の穴2個にBボンドを入れて⑮に差し込み、⑪・⑫・⑬にAビスで固定します。(図-4参照)
この時、⑮2枚が各溝に入っているか確認してからビス締めして下さい。(図-4参照)



▼組み立ての手順が裏面に続きます。

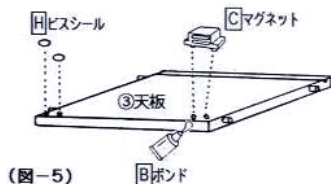
3 上置きを組み立てる。

F-283

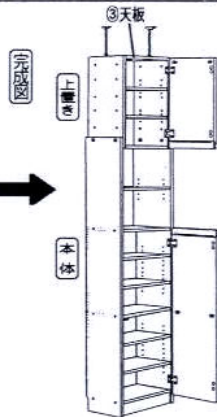
【注意】※マグネットを取り付ける時は、扉を右開きにするか左開きにするか決めた上で取り付けて下さい。

●扉を右開きにする場合……

③天板の穴2個に[B]ボンドを入れて[C]マグネットを取り付け、不要な穴2個に[H]ビスシールを貼って下さい。
(図-5参照)

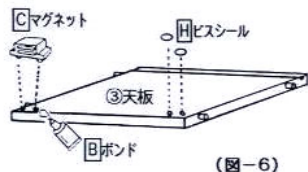


●マグネットを、図-1の位置に貼り付ける。
取り付ける時は、扉を右開きにするか左開きにするか決めた上で取り付けて下さい。

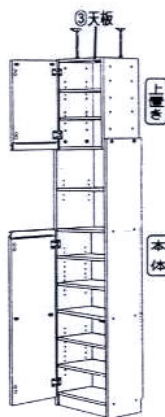


●扉を左開きにする場合……

③天板の穴2個に[B]ボンドを入れて[C]マグネットを取り付け、不要な穴2個に[H]ビスシールを貼って下さい。
(図-6参照)



●マグネットを、図-1の位置に貼り付ける。
取り付ける時は、扉を左開きにするか右開きにするか決めた上で取り付けて下さい。



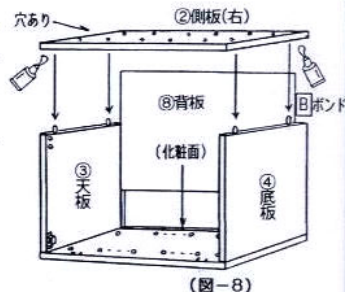
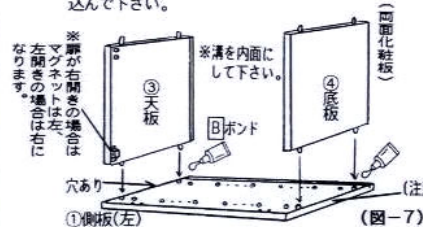
※かたい場合は[C]マグネットに古雑誌などを巻いて軽くたたいて下さい。
なお、たたき過ぎると破損する恐れがありますので、マグネットの突起した部分(差し込む部分)2本をサンドペーパーなどで少し削ると入りやすくなります。
ただし、削り過ぎにご注意下さい。

4 上置きを組み立てる。(続き)

※図-7と図-8は扉が右開きになる説明図ですが、左開きの場合も組み立て方は同じ要領です。

(1)①側板(左)の穴4個に[B]ボンドを入れ、③天板と④底板を差し込みます。(図-7参照)

(2)③と④の溝に沿って⑥背板を差し込み、②側板(右)の穴4個に[B]ボンドを入れ、③と④の突起した部分に穴を合わせて、上から傷のつかないようにあてものをあてて打ち込みます。(図-8参照)
この時、⑥が各溝に入っているか確認してから打ち込んで下さい。



※扉が右開きの場合には、マグネットは左側に貼り付けます。

※溝を外内にして下さい。

※扉化粧板

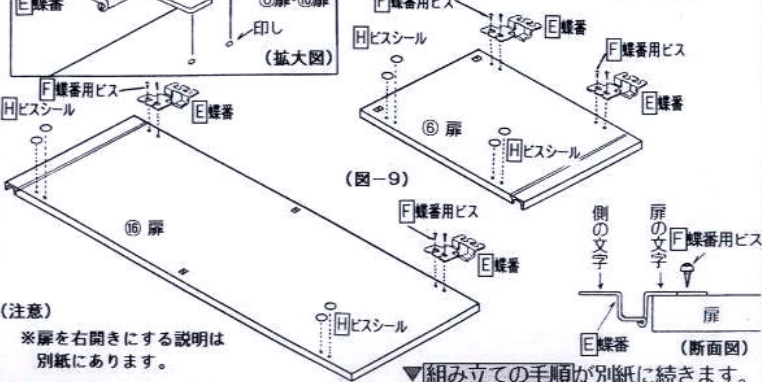
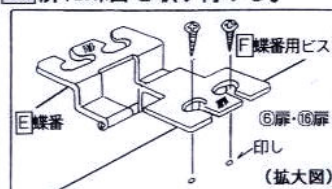
(注意)※この部分に穴がない方に、④底板を取り付けて下さい。

5 扉に蝶番を取り付ける。

●扉を左開きにする場合……

(1)上置きの扉⑥と本体の扉⑬の印しに[E]蝶番2個を合わせて、F蝶番用ビスで向きに注意して取り付けます。
(図-9-拡大図・断面図参照)

(2)不要な穴4個に[H]ビスシールを貼って下さい。
(図-9参照)



(注意)

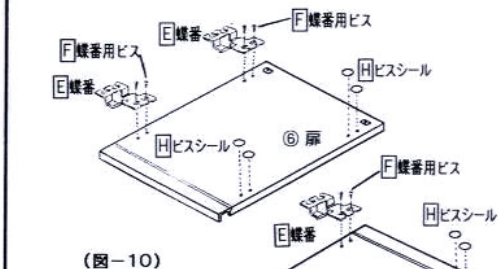
※扉を右開きにする説明は別紙にあります。

▼組み立ての手順が別紙に続きます。

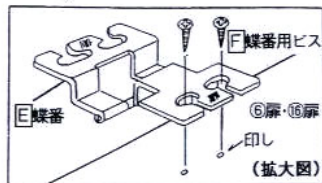
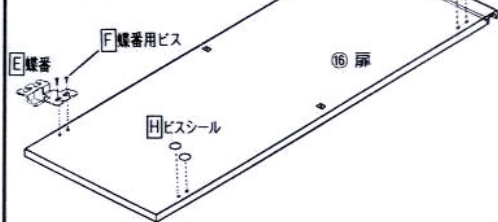
6 扉に蝶番を取り付ける。(続き) F-283

●扉を右開きにする場合……

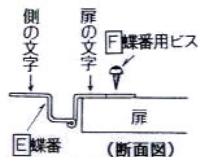
- (1) 上置き扉⑥と本体扉⑯の印しにE蝶番2個を合わせて、F蝶番用ビスで向きに注意して取り付けます。(図-10・拡大図・断面図参照)
- (2) 不要な穴4個にHビスシールを貼って下さい。(図-10参照)



(図-10)



(拡大図)



(断面図)

7 扉を取り付ける。(左開きの場合)

●上置き扉を左開きにする場合……

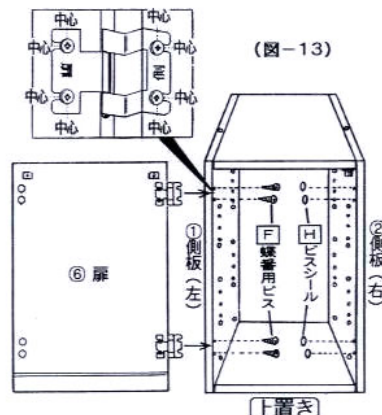
- (1) ①側板(左)の印し4か所にF蝶番用ビスを半分程度残してビス締めします。(図-11・図-13参照)
- (2) ⑯扉に取り付けたE蝶番を、①に取り付けたF蝶番用ビスに合わせて差し込みビス締めします。(図-12・図-13参照)
- (3) 最後に②側板(右)の穴4個にHビスシールを貼って穴を隠して下さい。(図-13参照)



(図-11)



(図-12)



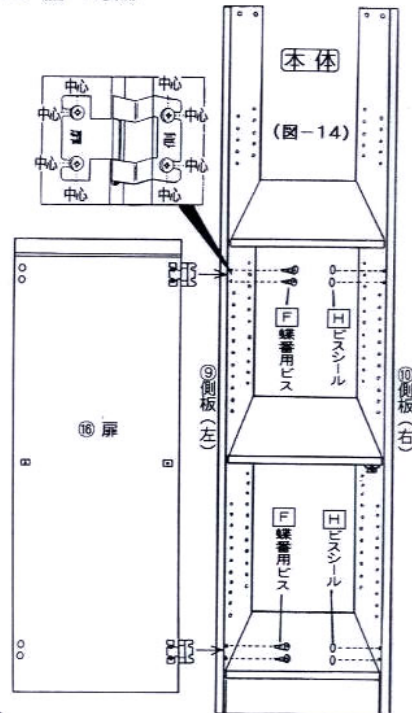
(図-13)

(注意)

※蝶番のビス締めする部分は楕円形になっていますので、最初は楕円形の中心でビス締めして下さい。すきまや高さが合わない場合にビスを少し緩め、前・後・上・下させて調整して下さい。(図-13・図-14参照)

●本体扉を左開きにする場合……

- (1) ①側板(左)の印し4か所にF蝶番用ビスを半分程度残してビス締めします。(図-11・図-14参照)
- (2) ⑯扉に取り付けたE蝶番を、①に取り付けたF蝶番用ビスに合わせて差し込みビス締めします。(図-12・図-14参照)
- (3) 最後に⑩側板(右)の穴4個にHビスシールを貼って穴を隠して下さい。(図-14参照)



(図-14)

※扉を取り付けた後ビスを少し緩め、すきまの調整をしてからしっかりと固定します。扉に取り付けたF蝶番用ビスで、扉を横に動かすことが出来ます。側板に取り付けたF蝶番用ビスで、扉の高さを調整出来ます。

▼組み立ての手順が裏面に続きます。

8 扉を取り付ける。(右開きの場合)

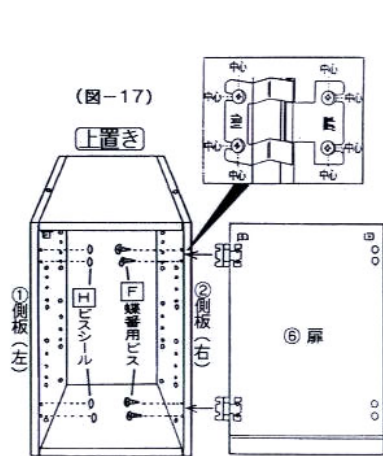
F-283

●上置き扉を右開きにする場合……

- (1) ②側板(右)の印し4カ所にF蝶番用ビスを半分程度残してビス締めします。(図-15・図-17参照)
- (2) ⑥扉に取り付けたE蝶番を、②に取り付けたF蝶番用ビスに合わせて差し込みビス締めします。(図-16・図-17参照)
- (3) 最後に①側板(左)の穴4個にHビスシールを貼って穴を隠して下さい。(図-17参照)

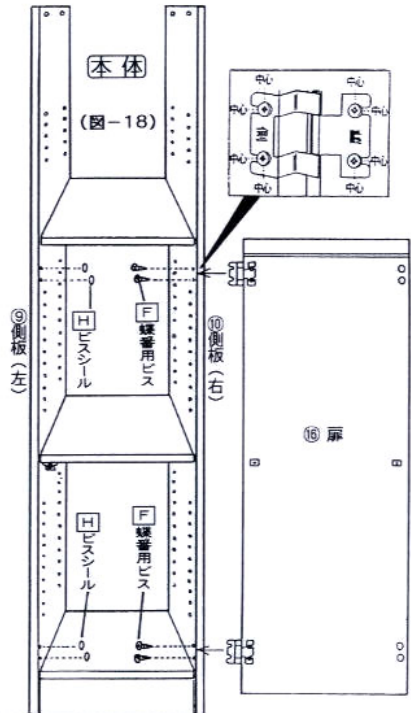
●本体扉を右開きにする場合……

- (1) ⑩側板(右)の印し4カ所にF蝶番用ビスを半分程度残してビス締めします。(図-15・図-18参照)
- (2) ⑩扉に取り付けたE蝶番を、⑩に取り付けたF蝶番用ビスに合わせて差し込みビス締めします。(図-16・図-18参照)
- (3) 最後に⑨側板(左)の穴4個にHビスシールを貼って穴を隠して下さい。(図-18参照)



(図-17)

(注意)
 ※蝶番のビス締めする部分は楕円形になっていますので、最初は楕円形の中心でビス締めして下さい。すきまや高さが合わない場合にビスを少し緩め、前・後・上・下させて調整して下さい。(図-17・図-18参照)



本体

(図-18)

⑨側板(左)

⑩側板(右)

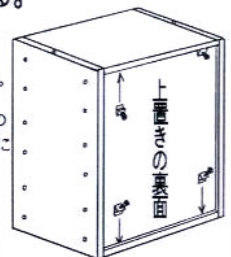
⑩扉

※扉を取り付けた後ビスを少し緩め、すきまの調整をしてからしっかりと固定します。扉に取り付けたF蝶番用ビスで、扉を横に動かすことができます。側板に取り付けたF蝶番用ビスで、扉の高さを調整出来ます。

9 背板止めを取り付ける。

上置きと本体の横揺れを軽減するため、D背板止めを取り付けます。

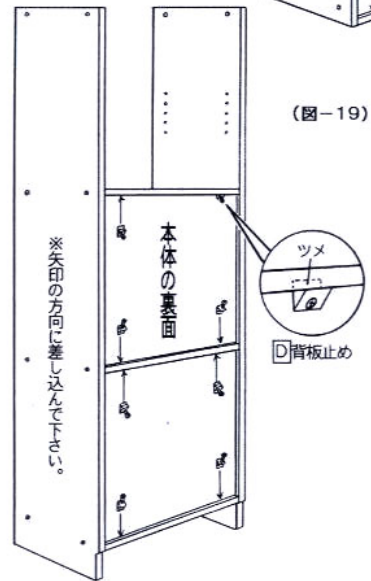
取り付け方は上置きと本体の裏面の背板部分にD背板止めのツメを溝に入れ、ビスで固定して下さい。(図-19・図-20参照)



(図-19)

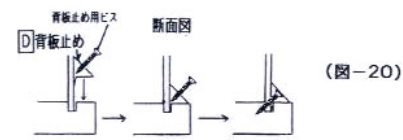
蝶番の厚みを残してビス締めます。(図-15)

蝶番を差し込んで固定します。(図-16)



D背板止め

※ビスの先が出ていると溝に入りません。



(図-20)

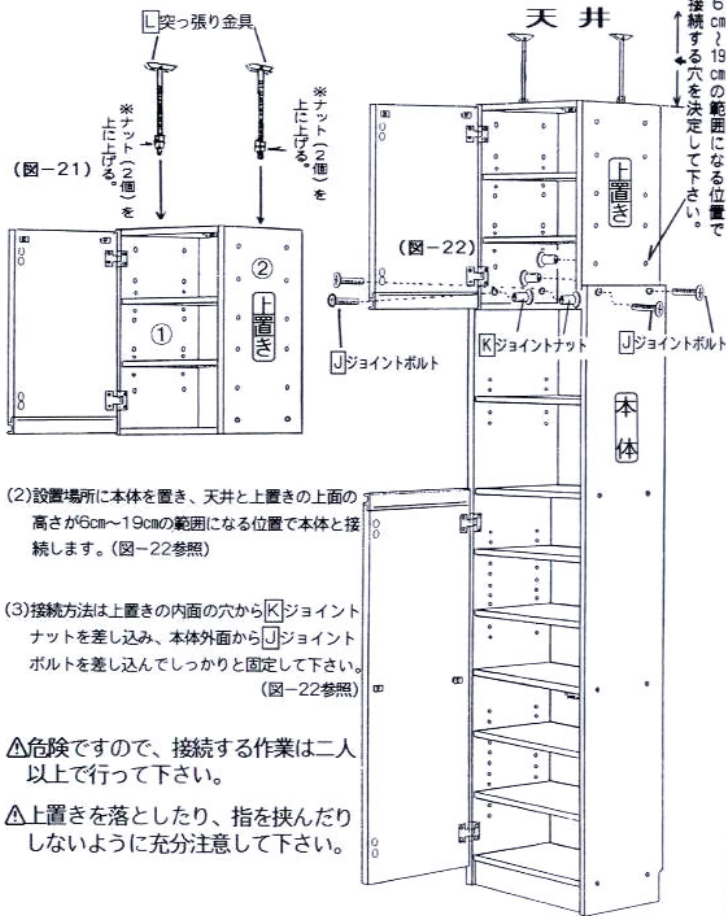
▼組み立ての手順が別紙に続きます。

10 本体に上置きを接続する。

※組み立ての手順 10~13の図は扉が左開きの図になっていますが、右開きの場合も組み立て方は同じ要領です。

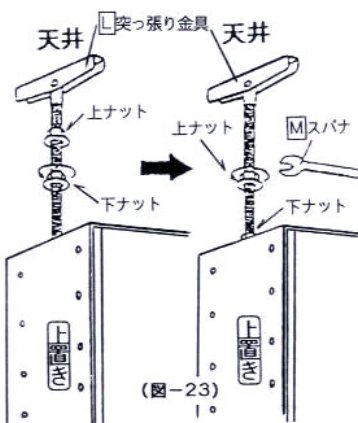
- (1) L突っ張り金具に付いているナット2個を上上げて、左右側板①・②の上部の穴に差し込みます。(図-21参照)

※注意 ※天井から上置きの上面までの高さが6cm~19cmの範囲になる位置で本体に接続します。



11 突っ張り金具を取り付ける。

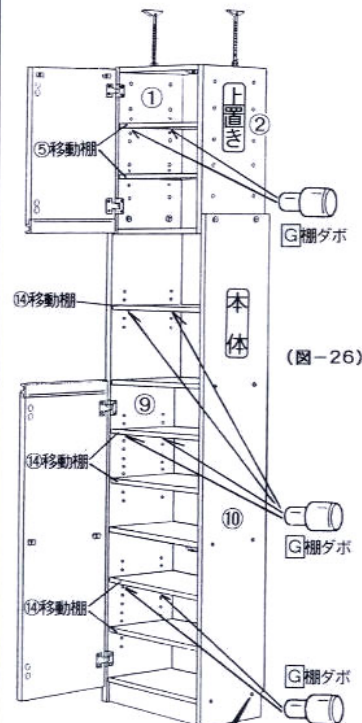
- L突っ張り金具の上部を天井にあて、下ナットを上置きの側板部分に固定し、上ナットをMスパナでしっかりと締めて下さい。(図-23参照)



13 移動棚を取り付ける。

- (1) 上置きの左右側板①・②と本体の左右側板⑨・⑩のお好みの穴にG棚ダボを差し込み、上置きの移動棚⑤2枚と本体の移動棚⑬5枚を乗せて下さい。(図-26参照)

- (2) 最後に見えているビスの頭にHビスシールを貼れば完成です。(図-27参照)



※ビスが響いていないか確認してから貼して下さい。(図-27参照)

※JジョイントボルトとKジョイントナットにはHビスシールを貼らないで下さい。

12 L型金具の取り付けについて

地震などによる転倒を避けるため、N L型金具を上置きの③天板上面に取り付け、柱・鴨居または壁(芯材のあるところ)に取り付けければ、より一層安全性が高くなります。(図-24・図-25参照)

壁の断面図

